ふるさとから学ぶ会／会報

Y.F.O ヤッフォー

Y湧別町 Fふるさとの Oお宝

第49号(2022年10月25日発行)
“第12回ふるさと講座のお知らせ号”
編集・発行
ふるさとから学ぶ会
代表・梅田 090-4922-5933

湧別の全漁獲量の８割を占めるホタテガイ

「22℃で成長が止まり25℃でへい死する」

第12回ふるさと講座のテーマは「流氷とオホーツク海」です

湧別の漁業は、広大な大陸棚を有し、冬、流氷に蓋われるオホーツク海に支えられています。

湧別では、1年間サロマ湖で大切に育てた稚貝を、環境を整えたオホーツク海の海域（水深20m～70m）に放流し、３年間の成長を待って漁獲します。この「外海ホタテ」は、湧別の全漁獲量の約８割を占め、2021年度、加工製品を加えた外海ホタテの販売金額は、70億円を超えました。

ホタテガイは、水深10m～70mの砂泥や砂礫の海底に生息し、成長に最適な海水温は2℃～20℃、22℃で成長が止まり、25℃になると栄養がとれなくなって死んでしまうそうです。

オホーツク海の様相が大きく変化しています。分厚い流氷が押し寄せ、圧し合う浜の姿は見られなく、サンマやホッケの不漁が続き、ブリやサバなど暖流魚が定置網にかかることもめずらしくないこの頃です。海水温の上昇がとても心配です。

オホーツク海の最大の特色は、流氷です。第12回ふるさと講座は、オホーツク海はどの様な海か、流氷との関わりを中心に学びます。第一部は「道立オホーツク流氷科学センター」の高橋修平所長の講義です。講座は、オホーツク海のあゆみと今を知り、未来を考え、私たちの暮らしに思いをめぐらす機会になると思います。ぜひ、ご参加ください。

第12回ふるさと講座「流氷とオホーツク海」

＜第１部＞「流氷から見るオホーツク海」（45分）
講師　高 橋 修 平 さん
（北海道立オホーツク流氷科学センター所長）

＜第２部＞「暮らしの中のオホーツク海」（60分）
・記録から見るオホーツク海と人との関わり
講師　中 島 一 之 さん（ふるさと館JRY館長）
・漁を通して感じていること～オホーツク海
講師　石 垣 誠 一 さん（漁師　ふるさとから学ぶ会）

＜第３部＞「感想　意見交換」（15分）
司会進行　深 谷　聡 さん（ふるさとから学ぶ会）

共催　ふるさとから学ぶ会
湧別町教育委員会
協力　北海道立オホーツク流氷科学センター
湧別漁業協同組合

○実施日
令和４年１１月２６日（土）
午後１時３０分～午後４時
（受付　午後１時～）
○会場　文化センターさざ波
多目的ホール
○参加費　無　料
○申し込み
教育委員会社会教育課へ
（TEL　５－３１３２）
☆締め切り
１１月２２日（火）（諸準備のため）

『アイスブーム』が活躍するくらい流氷が来てほしい

―――外海ホタテの水揚げ量は、14年12月の大しけの影響で減産が続き、同22.6%減の7793トン、金額も同38.2%減の15億6434万円と落ち込んだ―――（2018年3月21日付 道新より）

上記は、2017年度決算と2018年度事業計画を決めた湧別漁協の総会の様子を報じた北海道新聞記事の一部です。平成26年（2014年）、オホーツク海に発生した「爆弾低気圧」の暴風は、水深の浅い海底の砂を巻き上げ、砂を被せて、放流された稚貝や育ち盛りのホタテガイを窒息・へい死させました。「四輪採」の海域で育てるホタテガイが、例年の漁獲量に回復させるまで３年かかり、被害はホタテの漁獲の量だけで、57億円を超えました。

近年、冬のオホーツクは、U字形に流れる上空のジェット気流の影響で、発生した低気圧がオホーツク海上に停滞することが多く、そのため、しける日が多くなっています。

＜湧別漁協　森 義文常務の話＞

オホーツク海が流氷に蓋われていたら、たとえ「爆弾低気圧」に襲われても、海の中のホタテ貝に暴風の影響は及びません。流氷がホタテを守ってくれます。流氷には、毎年「アイスブーム」が活躍するくらい来てほしいですね。